

ひと 散歩道

「浅虫まちおこし応援団
がっちゃんこ」代表

いのうえ あかし
井上 丹さん(39)

ルーツや地域の結びつきを意識するようになっ
た。年々寂れる地元を離
れた場所で見続けたが、
浅虫小・浅虫中の閉校を
決め手に、何かアクショ
ンを起こさなければと考
えた」

2017年に浅虫まち
づくり協議会の結成に向
けたワークショップに参
加、同年代の参加者と意
気投合し「浅虫まちおこ



浅虫に新たな活力を

出身地の青森市浅虫地
区で結成された、若手住
民らの地域おこしグルー
プ代表。八戸学院大地域
経営学科で講師を務める
傍ら、活力のある地域社
会を実現するため、さま
ざまな活動に取り組む。

「活動のきっかけは。
」大学進学で地元を離
れ、帰省するたび自分の
育関連の営業職に関わっ
た。12年からは本県担当
となり、週のはほとんどを
県内で過ごす生活に。高
校時代まで浅虫で暮
らし、青森東高校から北
大工学部、同大公共政策
大学院へ進学。卒業後は
リクルート（東京）で教
任した。

校・大学生の進路選択や
キャリア教育への関心を
深めるうち、17年には同
社勤務のまま、縁あって
八戸学院地域連携研究セ
ンターの客員准教授に就
任した。

授業や研究内容は。
「まず学生たちに八戸
市や周辺地域の姿を知っ
てもらうため、企業やさ
まざまな団体に話を聞い
たり活動を体験してもら
った上で、地域への愛着
の変化を研究した」

18年には完全に転職
し、地域活性化と観光の
研究地を浅虫に決め「が
っちゃんこ」活動と研究
を並行。
「活動で見えてきた地
域課題や、当事者の経験
を伝えられれば学生の学
びにもつながる」
「どんな活動を。」
「最初はSNS（交流

「浅虫を各世代が自分
らしく楽しめるリゾート
地にしたい。先は長い
やりがいもある」
（斎藤義隆）